

# 市レベルの課題と対応方針 ・ 今後の方向性

平成29年度 第2回 松戸市地域ケア会議  
平成30年2月15日

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）① ～総論・認知症～

- 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論から抽出された市レベルの課題への対応方針及び今後の方向性等をまとめると、以下のとおり。
- 関係団体・機関及び行政は、以下の対応方針及び方向性に沿って、地域包括ケア推進に向けた対応を着実に進めていく

### 1. 認知症関係

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
1. 認知症の理解促進	○小中学生などの様々な世代や職種において、認知症の理解を促進する。	○松戸歯科医師会・薬剤師会は、会員向けの認知症サポーター養成講座を開催する。	○松戸歯科医師会・薬剤師会合同で、認知症サポーター養成講座を開催。 【29年7月20日 参加者は61人】
		○松戸警察署は、署員向けの認知症サポーター養成講座を開催する。	○松戸警察署、署員向けの認知症サポーター養成講座を開催。 【29年10月26日 参加者は97人。 警察署として声かけ隊の団体登録有】
		○商店会や企業との連携により認知症の方への理解と見守り等について普及・啓発を行う。  ○高齢者と接する機会のある企業への認知症サポーター養成講座を実施し、職業による認知症の方への理解と見守り等について普及・啓発を行う。	○JR東日本松戸車輛センターの職員を対象に、認知症サポーター養成講座を開催。 【29年12月19日 17名】  ○清掃業者3月3日予定。他の清掃業者についても開催日程を調整中。

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）② ～認知症～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
1. 認知症 の理解 促進 (続)	○小中学生などの様々な世代や職種において、認知症の理解を促進する。	<p>○市・地域包括支援センターは認知症サポーター養成講座を実施し、若い世代への認知症の理解を促進する。</p>	<p>○若い世代への認知症サポーター養成講座実施し、好事例の共有を図る（9回：29.12月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高木第二小学校にて実施。 （参加者36名。） 【常盤平】</li> <li>・集合住宅の子育て世代を対象に実施。 （参加者19名） 【馬 橋】</li> <li>・こども食堂にて2月18日実施予定 【小 金】</li> </ul> <p>○関係課と話し合いを行い、小・中学校での認知症サポーター講座の実施に向けて検討する。</p>
		<p>○市・地域包括支援センターは、地域のイベントの際に、若い世代への認知症の理解を促進する。</p> <div style="text-align: center;">  </div>	<p>○地域包括支援センターが、各地域で若世代への認知症普及啓発活動実施し、好事例の共有を図る（6回：29.12月現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松戸まつり 施設との協力により、認知症の方が作ったロバ隊長（全国認知症キャラバンのキャラクター）の工作コーナーを実施し、親子世代に認知症の普及啓発を行った。【参加300名】</li> <li>・ふれあい音楽祭【本庁地区】 三世代に対し、パンフレットや認知症チェックを用いた認知症啓発を実施。175名。</li> <li>・矢切こどもまつり【矢切地区】 ロバ隊長の工作や認知症チェックを実施し、親子で認知症に対する啓発を実施。169名。</li> </ul>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）③ ～認知症～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>2. 住民による認知症の見守りの推進</b>	<p>○住民による認知症見守りの仕組みの充実を図る。</p> <p>○オレンジ協力員のスキルアップや活動の充実が必要。</p>	<p>○市・地域包括支援センター及び松戸市社会福祉協議会は、オレンジ協力員の養成及び活動を推進。</p> <p>○活動内容に即した研修会の開催等を通じて、オレンジ協力員のスキルアップを図る。</p>	<p>○各種機会を通じて、オレンジ協力員の登録を推進する。  <span style="color: red;">・オレンジ協力員登録数（29年12月）：514人</span>  <span style="color: red;">【28年度末：433人】</span></p> <p>○オレンジ協力員登録説明会を定期的に開催し、活動に対する志気を高め実践活動者の増大を図る</p> <p>○傾聴をテーマにしたオレンジ協力員研修会を実施（29年度：3回）</p> <p>○市全体のオレンジ協力員や認知症地域支援推進員の連携と活動状況の共有を図る。  <span style="color: red;">・まきば声かけネット主催の認知症高齢者声かけ訓練に参加する。【まきば声かけネット】</span>  <span style="color: red;">・認知症の人や家族、支援者（介護事業所、薬剤師会、包括、行政等）、一般の人が少しずつリレーをしながらタスキをつなぎゴールを目指すRUN伴に参加する。【RUN伴】</span>  <span style="color: red;">・H29.8月より、オレンジ協力員2人以上で散歩をしながら近所の高齢者や子ども達を見守る『オレンジ パトウォーク』を実施している。【明第2西】</span></p>
		<p>○松戸市グループホーム協議会・松戸市小規模多機能型居宅介護連絡会は、オレンジ協力員の活動を積極的に受け入れる。</p> <p><span style="color: red;">○市・松戸市社会福祉協議会は、29年度の実績を踏まえて、オレンジ協力員事業の受入れ機関拡充の促進を図る。</span></p>	<p>○市・松戸市社会福祉協議会は、オレンジ協力員推進事業受入機関等拡充に向け、グループホーム協議会・松戸市小規模多機能型居宅介護連絡会と連携する。  <span style="color: red;">受け入れ申請施設の状況</span>  <span style="color: red;">【29年12月時点：24か所】</span></p> <p>○グループホーム等の高齢者施設でオレンジ協力員の体験学習会や活動を受け入れている。  <span style="color: red;">【29年12月時点：17か所】</span></p> <p>○オレンジ協力員が受入機関での活動を積極的に行えるように活動体験学習会を実施する。</p>

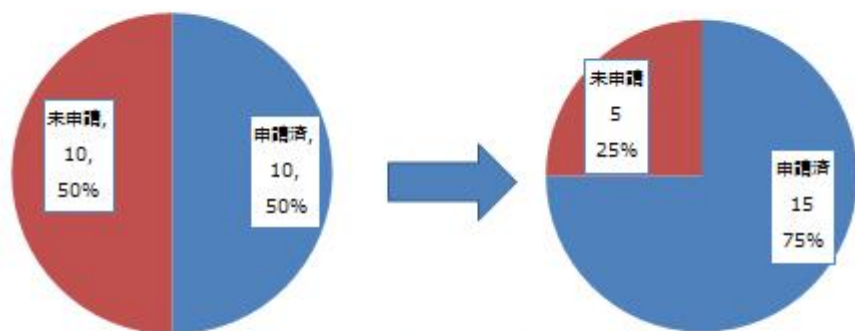
## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）④ ～認知症～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<p><b>3. 認知症の早期支援</b></p>	<p>○認知症の早期把握・早期対応を推進していくことが必要。 ○かかりつけ医との連携に基づく認知症早期支援の推進。地域サポート医との連携推進。</p>	<p>○30年度からは、医師会・歯科医師会・薬剤師会・特別養護老人ホーム連絡協議会・介護支援専門員協議会・通所介護事業所連絡会等の関係団体の協力の下、包括・医療機関・薬局・介護事業所・ケアマネ事業所等の参画を得て、「認知症を予防できる街♡まつどプロジェクト」の推進・効果の向上を図る。</p>	<p>○医師会・薬剤師会に加えて、新たに特別養護老人ホーム連絡協議会・介護支援専門員協議会・通所介護事業所連絡会等の協力を得て、「認知症を予防できる街♡まつどプロジェクト」をより幅広く展開した。来年度以降は、新たに歯科医師会の協力も得つつ、更なる推進を図る 【29年12月時点】 実施機関：30機関・支援対象者：194人 【28年度実績】 実施機関：21機関・支援対象者：91人</p> <p>○29年度中に関係者会議を行い、事業実施状況の検証及び30年度の方針について話し合いを行う。</p>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑤ ～認知症～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
3. 認知症の早期支援（続）	<p>○認知症の早期把握・早期対応を推進していくことが必要。</p> <p>○かかりつけ医との連携に基づく認知症早期支援の推進。地域サポート医との連携推進。</p>	<p>○市は、医師会・リハビリテーション協議会等関係機関と連携し、30年度から「認知症初期集中支援チーム」を地域包括支援センターに3か所増設することによって、合計7か所で実施し、認知症初期の集中的な支援の推進を図る。</p>	<p>○認知症初期集中支援実施状況 4チーム（医師会委託1か所 ・地域包括支援センター委託3か所）</p> <p><b>【29年度支援実績（29.12月現在）：20件</b> ※28年度支援実績（29.3月末現在）：16件</p> <p><b>【チーム介入による実績】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険未申請者10名のうち、5名が申請につながった。</li> <li>・介護保険サービス未利用者17名のうち、8名はサービス利用につながった。</li> <li>・医療未受診者11名のうち、7名は受診につながった。</li> </ul>

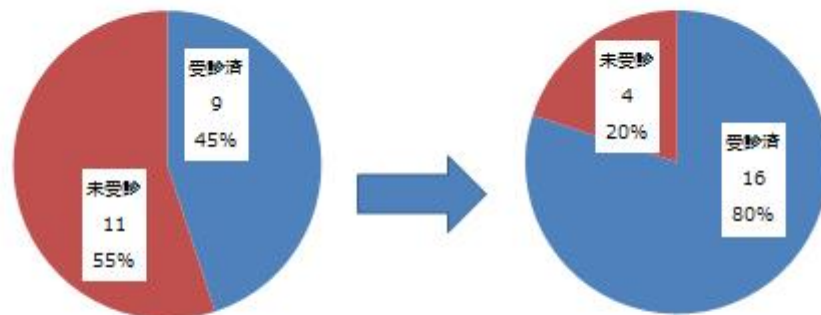
介護認定状況 N=20



介護保険	介入前		介入後		計
	申請済	未申請	申請済	未申請	
	10	10	15	5	20

介護保険未申請者10名のうち、5名が申請につながった。

医療受診 N=20



医療受診	介入前		介入後		計
	受診済	未受診	受診済	未受診	
	9	11	16	4	20

医療未受診者11名のうち、7名は受診につながった。



## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑥ ～認知症～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>4. 認知症 の地域 支援</b>	<p>○認知症高齢者が地域で生活していくための居場所や役割の検討が必要。</p> <p>○認知症の人と家族を支える地域資源の充実が必要。</p>	<p>○地域で行われている認知症カフェやサロンの把握と周知を推進する。</p>	<p>○29年11月より、認知症カフェの紹介をホームページ等に掲載し周知を推進する。</p> <p>○認知症カフェ開設状況：9件（29年12月時点）</p> <p>○場の提供について、特連協にて検討予定。</p>
		<p>○既存にない集いや認知症カフェの検討・開発を行う。</p>	<p>○29年11月より、若年性認知症カフェの設置【週1回開催】 基幹型包括が設置支援を実施。認知症疾患医療センター・認知症コーディネーター・NPOに声かけ、準備会3回実施。</p> <p>○地域包括支援センターが新規に立ち上げた、または支援した集いの場や社会資源の開発状況。（H29.4月～12月の状況：9団体）内、3か所は予定。 ・29.6月より サ高住の会場協力もあり、認知症カフェを月1回開催【明1】</p>
		<p>○認知症地域支援推進員は、認知症の普及啓発をはじめ、地域の関係者と連携を図り、活動を推進する。</p>	<p>○認知症地域支援推進員配置状況（29.12月現在31名）</p> <p>○認知症地域支援推進員の会議により実施した活動内容</p> <p>・29.10月 松戸まつりにおいて、若い世代への普及啓発の実施。（ロバ隊長工作コーナー-新設等）</p> <p>・30.3月 市役所連絡通路での認知症普及啓発の実施予定（パネル展示、クイズ、相談等）</p>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑦ ～認知症～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>5. 認知症高齢者の意思決定支援</b>	<p>○金銭管理等の意思決定が困難である独居の認知症高齢者が増加していく中で、意思決定支援を行う仕組みの充実を図っていくことが必要。</p>	<p>○市および市社協は、日常生活自立支援事業および後見成年制度の利用が必要な人の支援体制の充実を図る。</p> <p>○日常生活自立支援事業利用者について、判断能力の低下が予測される場合は、市社協、包括等の支援者は成年後見制度の利用検討など、迅速対応ができるよう連携を行う。</p>	<p>○29年度中に、市と市社協の権利擁護担当者は、各事業の現状を共有し、支援体制の充実に向け検討を行う。</p> <p>○市社協における状況（29年12月時点）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活自立支援事業利用件数：81件</li> <li>・平成29年度新規開始件数：14件</li> <li>・待機期間は約3か月。</li> <li>・職員3名と生活支援員実働42名（62名登録）で対応。</li> </ul>
<b>6. 消費者被害の防止の推進</b>	<p>○高齢者に対する対応だけでは問題解決に至らないケースがあり、他機関との連携、ネットワークの強化が必要。</p>	<p>○消費生活センターや警察等関係部署との連携・情報共有を図る。</p> <p>○消費生活センターや市民安全課等の関係課と連携し、普及・啓発を図る。</p> <p>○消費者被害・詐欺被害予防に向け、周知を図る。</p> <p style="padding-left: 20px;">消費生活相談件数： 【27年度 2,776件】 【28年度 2,713件】</p> <p>※松戸市内の詐欺被害状況【29年1月時点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・松戸警察管内 被害件数108件、 被害額約2億3千万円</li> <li>・松戸東警察管内 被害件数65件、 被害額1億400万円</li> </ul> <p style="padding-left: 20px;">被害額が県内1位</p>	<p>○高齢者支援課は、消費生活センターと、認知症支援体制について情報共有を行った。</p> <p>○消費生活相談員が認知症サポーター養成講座を受講した。</p> <p>○市は、防犯に関する出前講座（市民安全課）を開催。7回開催【29年12月時点】</p> <p>○一定の条件を設けて詐欺対策録音メッセージの設定や録音器具の貸し出し・取り付けの無償化や一部補助、防犯カメラ（ダミーを含む）の貸し出しを行う。（市民安全課） 【設置数：28台（貸与予定数90台） 【30年1月22日現在】</p>



# 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑧ ～医療連携～

## 2. 医療連携関係

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<p><b>7. 困難事例における医療対応の推進</b></p>	<p>○地域サポート医によるアウトリーチを積極的に活用し、困難事例における医療対応を推進する。</p> <p>○アウトリーチの必要性判断や事前の情報分析機能の充実、幅広い相談対応の受け止めが重要。</p>	<p>○市は医師会への委託を通じて、在宅医療・介護連携支援センターを設置し、在宅医療・介護連携推進のための専門的な相談機能・執行機能の強化を図る。</p> <p>○地域包括支援センター・市等は、地域サポート医の対応事例（相談支援・アウトリーチ）の共有等を通じて、地域サポート医の活用を推進し、困難事例における医療対応を推進する。</p>	<p>○30.4月より、医師会への委託を通じて、在宅医療・介護連携支援センターを設置する。在宅医療・介護連携支援センターは、アウトリーチ実施前の事前調整の充実を図るとともに、多様な専門職が相談支援やアウトリーチを実施できる体制の整備を進める。</p> <p>○受診拒否・サービス拒否によって、適切な医療・介護サービスにつながらない事例においては、地域包括支援センターは、地域サポート医の活用を積極的に検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談実績（29年度12月時点）</li> <li>    * 相談支援：78件</li> <li>    * アウトリーチ：14件</li> </ul> <p>○医師会推薦によって各地域ケア会議の担当とされた医師は、地域個別ケア会議の議論の中で、地域サポート医の活用について積極的に助言を行う。</p>
<p><b>8. 在宅ケアに関する啓発</b></p>	<p>○在宅ケア（医療・介護）に対する期待が大きい一方で、不安も大きい。</p> <p>在宅ケアを安心して受けられるようにするための情報提供や啓発活動が必要。</p>	<p>○地域においてきめ細かく在宅ケアの普及を図る。</p> <p>○松戸市医師会は、関係団体等と連携しつつ、住民・専門職と一緒に「終活かるた」の作成を推進し、亡くなるまでの準備段階について話合場の形成を進めて、終活に向けての普及・啓発を図る。</p>	<p>○在宅医療・介護連携支援センター（医師会に委託）は、在宅医療・介護普及のための地域でのきめ細かなミニ講演会を多数開催するとともに、松戸の在宅医療に特化した普及啓発素材の開発・活用を進める。</p> <p>○終活かるた作成のワークショップ</p> <p>【実績（29年度12月末）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 開催数 3回（全5回）</li> </ul>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑨ ～医療連携～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>9. 医療・介護連携の推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○往診のできるクリニック等の増加</li> <li>○連携を効率化するための在宅医療・介護関係者間のルールづくり</li> <li>○救急搬送に関して、関係機関との連携の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○医師会は、在宅医療への参入を検討する開業医への支援を通じて、かかりつけ医による在宅医療を推進する。</li> <li>○市は、内科以外の耳鼻科、眼科等往診拡充の必要性について医師会等と連携して対応を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○在宅医療・介護連携支援センター（医師会に委託）は、診診連携（診療所間連携）による24時間対応体制構築の調整・支援や、医師の在宅診療を補助する訪問看護師の配置調整（マッチング）等を通じて、在宅医療に新規参入する開業医を支援。</li> <li>○内科以外の往診の要望があることについて市は医師会と相談・対応方針の検討を行う。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○医療・介護の関係団体は、在宅医療・介護連携を推進するための多職種連携を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歯科医師会は、29.12月より、在宅歯科無料健診開始した。</li> <li>○薬剤師会は、多くの医療機関に受診し、薬の重複が発生している可能性がある事例については、医療機関、介護関係者と積極的に連携した取り組みを検討する。</li> <li>○訪問看護連絡協議会は、29.11月に作成したエチケット集を通じて、在宅医との連携を推進する。</li> <li>○介護支援専門員協議会は、医師会と連携に基づき、在宅医とケアマネの間のエチケット集を作成予定。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○繰り返し救急要請をする方への対応方針について関係者で共有を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○救急搬送実績【29年1月～12月】 22,976件、内 高齢者搬送 13,620件</li> </ul>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑩ ～社会資源～

### 3. 社会資源の把握・開発関係

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
10. ゴミ出しへの支援	○ゴミ出し支援の環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市（環境業務課）は、ホームページ及び広報まつどにおいて、ゴミ集積所に家庭ゴミを捨てるのが難しい世帯に対するゴミの個別回収についての周知を実施。</li> <li>○市は、ゴミ出し支援のニーズ把握と必要な方策の検討。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市は、ゴミ出し支援のニーズ把握と必要な方策の検討を行う。またゴミ収集の担当課だけではなく、福祉関係課とも協議し、方向性を検討する。</li> <li>○市（担当課）は、広報まつど（29年10月15日号）において、ゴミ集積所に家庭ゴミを捨てるのが難しい世帯に対するゴミの個別回収についての周知を実施。</li> <li>○ごみの個別回収数13件（29.12月現在）</li> </ul>
11. 社会資源の把握・開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域包括支援センターにおける社会資源の把握・開発を推進することが必要。</li> <li>○地域包括支援センターが運営する体操教室の好事例の共有を通じて、サロン等の自主運営を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域包括支援センターにおける社会資源の把握・開発を推進するため、市・地域包括支援センターは、地域包括支援センターの事業評価の中で、社会資源の把握・確認に関する評価を実施するとともに、好事例の共有化を図る。</li> <li>○地域包括支援センターが運営する体操教室の好事例の共有を通じて、住民主体のサロン等の自主運営を推進する。</li> <li>○地域特性や対象者の住民に活用できる情報やマップ等好事例の共有。</li> <li>○市と地域包括支援センターは、ボランティア活動の推進に向けて、市社協と連携する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○市社協に登録されているボランティア団体数 226団体【30年1月現在】 個人登録者数 466名【30年1月現在】</li> <li>○地区社会福祉協議会や子ども、障害者、高齢者等の多分野に所属する人とネットワークをつくりながら地域活動を推進している。【小金】</li> <li>○市は、民間（スポーツクラブ、介護施設等）の人材や場所の協力を得て高齢者の社会資源の開発について検討する。</li> </ul>

市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑪ ～介護予防・生活支援～

4. 介護予防・生活支援関係

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<p><b>12. 高齢者の外出支援の推進</b></p>	<p>○外出支援の促進に向けた情報提供が十分ではない。 ○移動困難な高齢者の外出支援の整備が必要。</p>	<p>○市は、外出支援に関するニーズの把握を行い、市民が乗車できるシステム等について検討を行う。</p> <p>○既存の制度（福祉有償運送等）の周知を図るとともに、介護予防・日常生活支援総合事業の「訪問型元気応援サービス・困りごとコース」の中で、移送支援（付添）サービスを実施。</p> <p>○介護関係の車を高齢者の外出支援に利用できるように、市内の事業所と協定を結ぶ等、連携体制の整備を行う。</p>	<p>○「訪問型元気応援サービス・困りごとコース」移送支援（付添）サービスの状況。 利用件数38件。【29年12月時点】</p> <p>・今後、民間の巡回バス情報を検証し、外出支援体制の構築に向け、検討を行う。</p> <p>※地域包括支援センターが把握している民間の巡回バス等の情報（病院、自動車教習所、スポーツクラブ等）18件。 【29年12月時点】</p> <p>○高齢者が利用しやすい交通手段の導入の推進</p> <p>・29.12月から中和倉地区をモデル地区として、コミュニティバス実行運行を開始した。実証運行終了後、評価・検証し、検討予定。</p> <p>・29.9月からモデル的に、シニア交流センターから馬橋駅において医療機関等の送迎バスを活用した外出支援等を実施している。今後、検証・検討を進めていく。 利用登録人数：7人【30年1月上旬時点】</p>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑫ ～見守り～

### 5. 見守り・安否確認関係

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>13. 高齢者の 見守り・ 安否確認</b>	<p>○商店会との連携に基づく見守り強化に向けた意見交換等の実施</p>	<p>○商店会との連携に基づく見守り強化に向けて、商店会・地域包括支援センター・市役所による意見交換の場を設ける</p> <p>○市は、地域ケア会議等から把握した高齢者の見守り活動について情報を整理し、好事例の共有を図る。</p>	<p>○商店会・包括・市役所による意見交換の場を設け、見守りの方法や関係機関との連携の仕方などについて懇談した。</p> <p>・意見交換会：30年1月24日開催。 今後、商店会向け認知症サポーター養成講座を30.3月頃開催予定。また、商店会で高齢者安心カードを活用し、声かけの手掛かりにするとともに、地域包括支援センターへ連携手段にしていく。【明第2西】</p> <p>○地域の見守り体制について、好事例を共有する。</p> <p>・セキュリティが高いマンションにおいての管理人、管理会社等の情報を収集し一覧表を作成し、関係者で共有した。【本庁】</p>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑬ ～地域共生関係～

### 6. 地域共生関係

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>14. 障害者分野との連携</b>	<p>○障害者支援機関との連携強化</p> <p>○障害者総合支援法から介護保険法へ移行する方については、それぞれの制度を関係者で共通理解できる体制の構築・推進が必要</p>	<p>○市・地域包括支援センターは、事例対応に際して、障害者支援機関（基幹相談支援センター、中核地域支援センター）との連携を推進する。</p> <p>○市、地域包括支援センターは、地域ケア会議において障害者分野との連携（出席依頼や相談等）の推進を行う。</p> <p>○市は、地域包括支援センターに合同連絡会や研修等を通し、高齢者以外の様々な問題（障害者等）に対する知識の普及を行う。</p> <p>○市は、包括以外の高齢者分野の支援者に向け研修の情報を周知する。</p> <p>○市は、高齢者と障害児者が同一事業所でサービスを受けやすくするため、関係部署や事業所等を対象に研修会を行う。また、関係機関は情報共有を行い、円滑なサービス導入を図る。</p>	<p>○地域包括支援センターにおける障害者支援機関との連携実績 【610件 29年12月時点】</p> <p>○地域個別ケア会議における障害分野担当者の出席状況 【4包括・4回 29年12月時点】</p> <p>○地域包括支援センター職員による多分野にまたがる支援を推進するため、29年度地域包括支援センター合同研修会において、以下の内容の研修を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月：生活困窮者自立支援事業</li> <li>・ 8月：包括が構築するネットワークの意義</li> <li>・ 12月：障害者福祉に関すること</li> </ul> <p>○障害者総合支援法のサービスから介護保険法のサービスへ移行する場合は、関係者で合同の担当者会議を実施し、支援の共有を図る。</p>



## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案） ⑭ ～地域共生関係～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<p><b>15. 多分野にまたがる支援の推進</b></p>	<p>○高齢者以外の他分野の関係機関（市役所内担当部署、保健所など）との連携強化。</p> <p>○高齢者だけでなく、同居家族の支援が必要なため、他機関との連携・ネットワークの強化が必要。</p>	<p>○市は、基幹型地域包括支援センターにおいて、高齢者分野に加え、障害・児童分野などについても基礎的な相談への対応や適切な機関の紹介ができる体制を構築する。</p> <p>○市は、高齢者以外の他分野の関係機関と連携を図る。</p> <p>○難病や精神疾患等の複合的なケースを支援するために、専門的な知識のある機関と積極的に連携をとる。</p> <p>○日本語が分からないためか、認知機能の低下で意思疎通ができないためか支援者が対応に困る事例がある時に、外国語版の資料や必要時に通訳が同席できるなど多様な支援に対応できる体制整備が必要。</p>	<p>○30年度より、地域共生社会の実現に向けた取り組みを推進するため、基幹型地域支援センターの高齢者総合相談窓口を共生相談窓口化する。</p> <p>○地域共生社会の実現に向けて、包括的な支援システムについて検討を行うとともに、福祉各分野の相談支援機関の連携を図るため「福祉相談機関連絡会」を設置。</p> <p><b>参加機関</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 中核地域生活支援センターほっとねっと</li> <li>(2) 松戸市基幹相談支援センター CoCo</li> <li>(3) 松戸市自立相談支援センター</li> <li>(4) 松戸市社会福祉協議会相談センター</li> <li>(5) 地域包括支援センター</li> <li>(6) 親子すこやかセンター</li> <li>(7) 松戸市基幹型地域包括支援センター</li> <li>(8) 生活支援一課</li> <li>(9) 障害福祉課</li> <li>(10) 地域福祉課</li> </ol> <p><b>内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 8月：現状についての意見交換</li> <li>・ 9月：連絡会の方向性を検討</li> <li>・ 11月：要綱および支援者用ツールの作成</li> </ul> <p>○市は、外国出身の高齢者に対するサービスや支援の在り方について検討する。（例えば、通訳、外国語版パンフレット）</p>

## 市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑮ ～地域共生関係～

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<b>15. 多分野に またがる 支援の推 進（続）</b>	<p>○高齢者以外の他分野の関係機関（市役所内担当部署、保健所など）との連携強化。</p> <p>○高齢者だけでなく、同居家族の支援が必要なため、他機関との連携・ネットワークの強化が必要。</p>	<p>○市は、保健分野において、高齢、障害、子ども、がん・生活習慣病等の慢性疾患などの複合的な対応や世代別施策に基づく包括的な疾患・介護予防を推進するため、他機関との連携を通じて、包括的な地域保健体制の構築に向けた取り組みを推進する。</p>	<p>○地域保健に関わる庁内関係部署の連携推進会議を29.11月に設置し、今後、定期的を開催する。【初回：29.12月22日開催】</p>

市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑯ ～地域ケア会議～

7. 地域ケア会議

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<p><b>16. 地域ケア会議の推進・強化</b></p>	<p>地域ケア会議を通じた課題解決の推進</p>	<p>○市は、松戸市地域ケア会議について、地域レベルから把握された市レベルの課題解決に向けて、関係団体や関係機関などが具体的な対応策の検討・実行を推進する。</p> <p>○市、地域包括支援センターは、困難性の高い事例・典型的な事例等に対する課題解決能力の向上を通じて、地域ケア会議の機能強化を図る。</p>	<p>○市・地域包括支援センターは、介護支援専門員等が地域ケア会議を通じた支援を受けられるよう環境整備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護支援専門員による個別ケア会議事例提供数 (個別ケア会議46回中、24件事例提供)</li> <li>・30年上半期までに介護支援専門員協議会定例会や介護支援専門員研修会にて地域ケア会議の活用について周知・協力依頼する。</li> </ul> <p>○市は、松戸市地域ケア会議における重点テーマを整理し提示するなど、地域ごとのケア会議が議論しやすい体制整備を行う。</p> <p>○地域ケア会議の機能強化を図るため、各地域における会議の構成員の参加を求め、市レベルで、事例検討会や先駆的な地域についての研修会等を開催する。</p> <p>○地域ケア会議において、世代を超えて、学生や障害者、元気な高齢者など、一般市民とともに協議できる場の設定を検討する。</p>

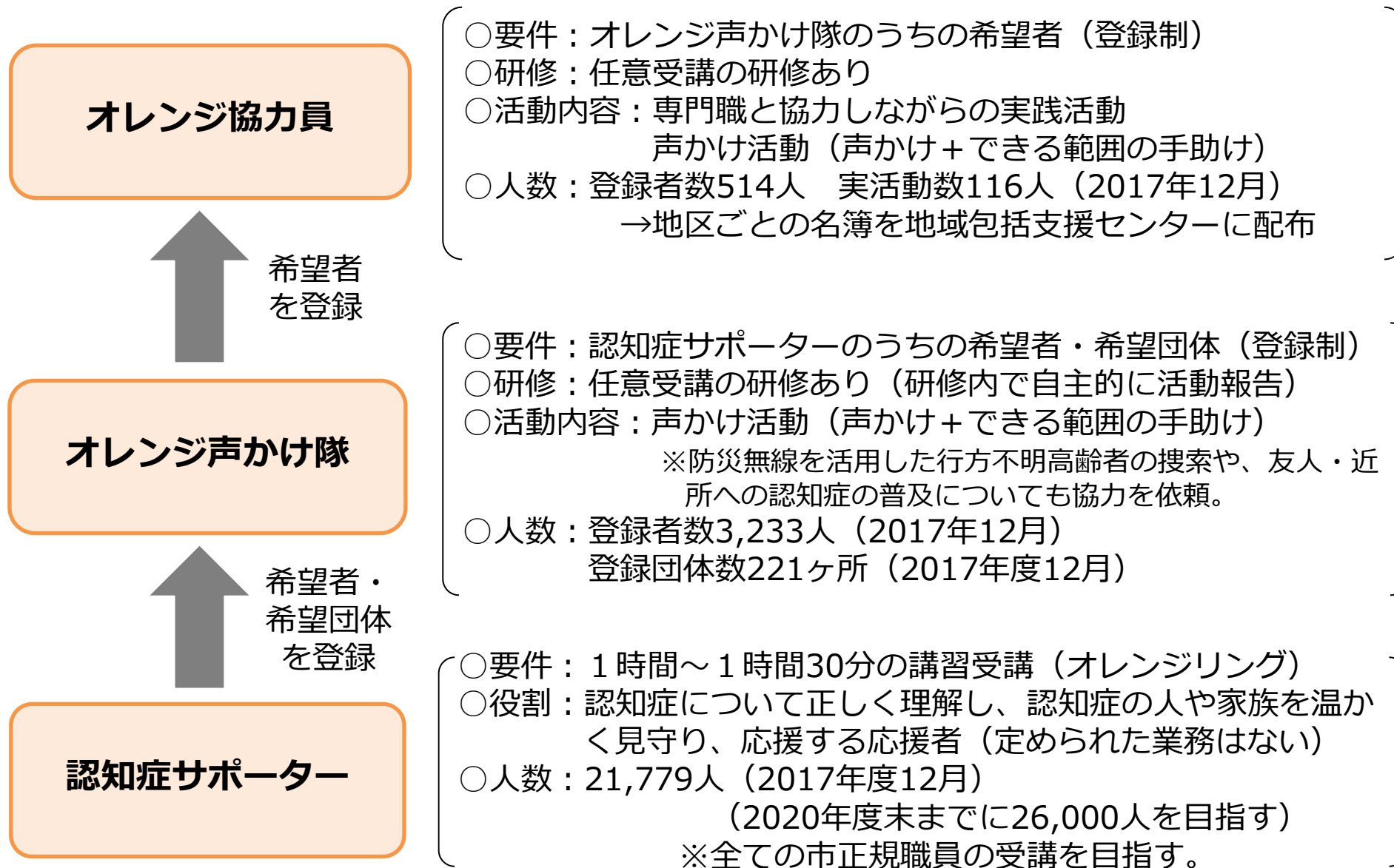
市レベルの課題と対応方針・今後の方向性（案）⑰ ～地域ケア会議～

7. 地域ケア会議

テーマ	市レベルの課題	関係団体・機関及び行政による対応方針	対応状況・今後の方向性
<p><b>16. 地域ケア会議の推進・強化 (続)</b></p>	<p>地域ケア会議を通じた課題解決の推進</p>	<p>○市は、ケアマネを対象とした自立支援の視点を強化したプラン作成推進及び研修会等の開催。</p>	<p>○毎月、地域包括支援センターを対象とした自立支援型マネジメント検討会を実施。 (9回 182名、18事例 29年12月末現在)</p> <p>○軽度者に係る自立支援型ケアマネジメントの推進を図るため、市は、30年度中に、自立支援型ケアマネジメント検討会を地域個別ケア会議の一類型と位置づけることを検討し、検討結果に沿って、可能な限り速やかに、所要の取組みを講じる。 (主な検討事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・構成メンバー（他地域における先進事例を参照しつつ検討）</li> <li>・数多くの事例検討を行う仕組みの構築</li> <li>・個別事例の検討から、生活支援体制整備等に係る地域の課題を的確に把握するための仕組みの構築（不足する高齢者向け生活支援・介護予防サービスの把握等）</li> </ul>

# 參考資料

# 松戸市における認知症支援の地域人材と今後の方向性

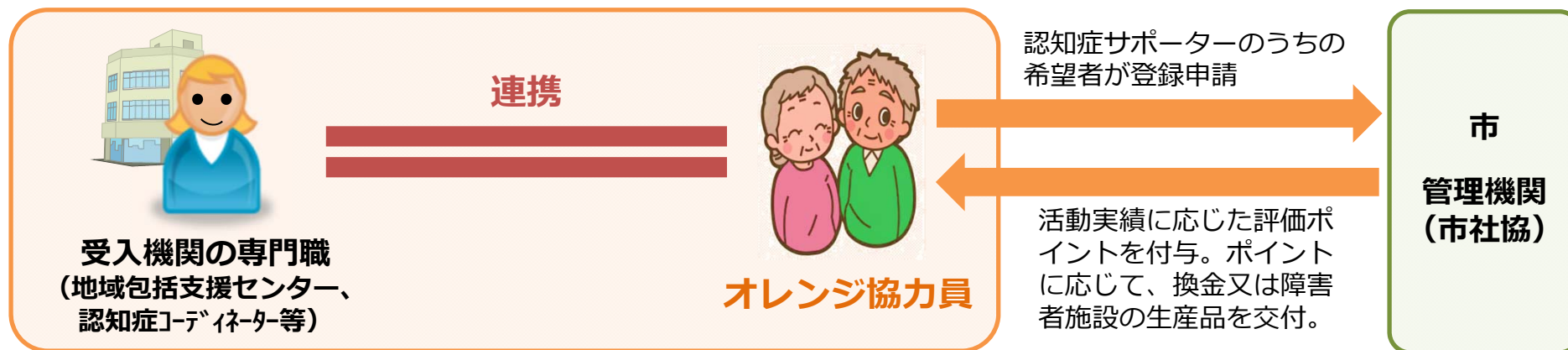


※認知症コーディネーター：地域における認知症支援体制の構築に向けた活動に従事する医療・福祉・介護の専門職（ケアマネ、看護師等）。所定の研修の受講が要件。松戸市に102名いる。



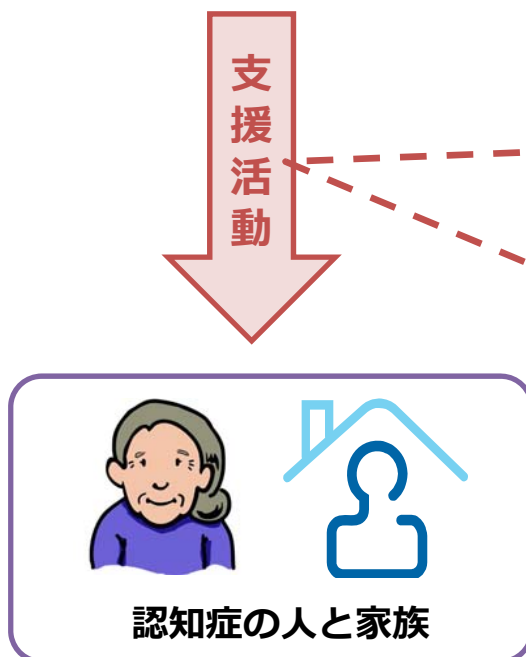
# オレンジ協力員の取組

- 松戸市独自の取組として、認知症の人と家族を地域で支援していくため、専門職と連携して実践的な支援活動等を行うボランティア「オレンジ協力員」を養成。
- 地域包括支援センター・認知症コーディネーター等と協力した実践的活動を推進。



※受入機関

- ・市
- ・管理機関（市社協）
- ・地域包括支援センター
- ・指定を受けた以下の機関
  - \* 認知症コーディネーターの会
  - \* グループホーム
  - \* 小規模多機能事業所
  - \* 介護保険事業所・施設



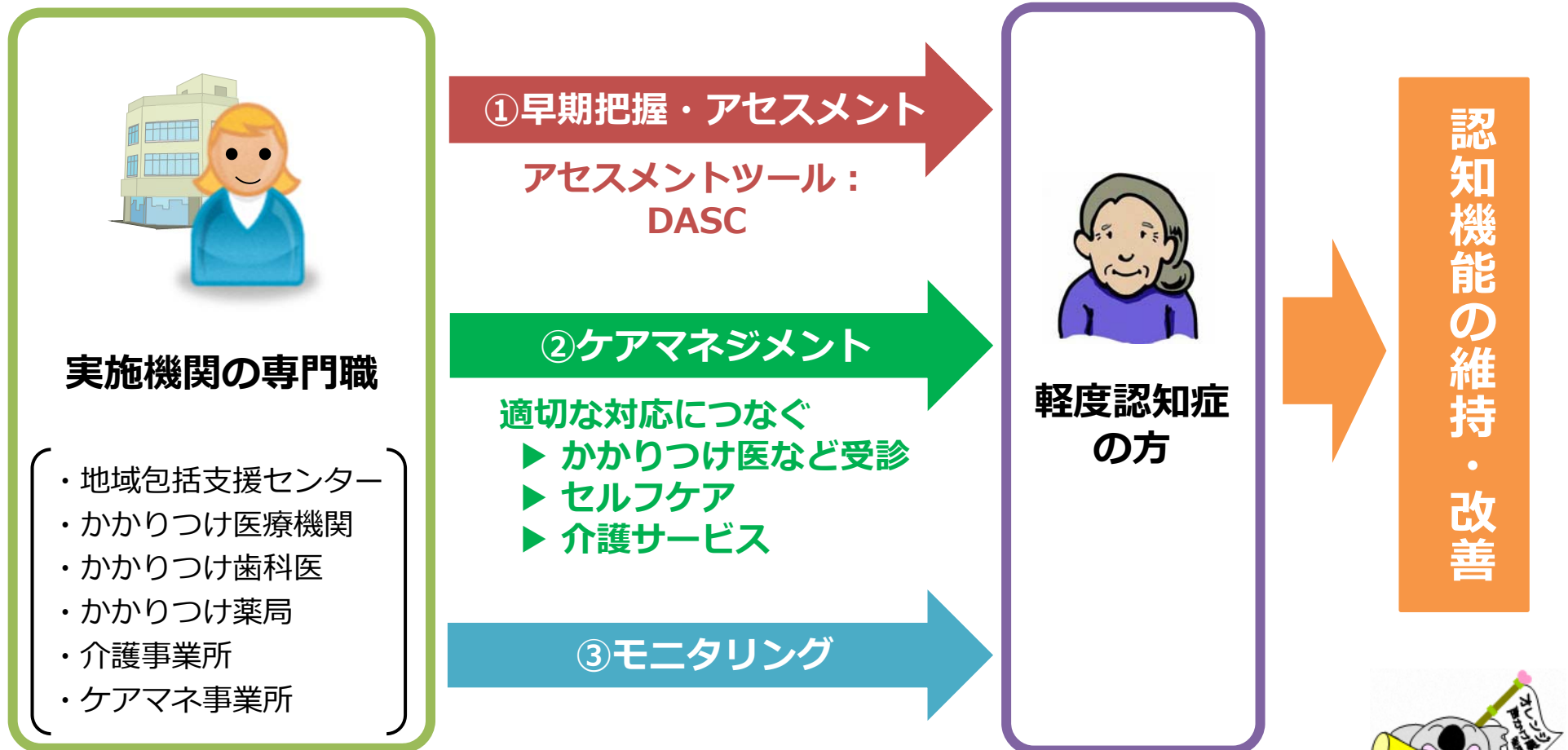
## 【オレンジ協力員の実践的な支援活動の内容】

- 自宅、施設等での認知症の人・家族の話の傾聴（傾聴ボランティア）
- 認知症の人・家族の相談への対応
- 認知症の人の散歩、買物等への同行
- 認知症の人等の支援に係るレクリエーション等の指導・運営補助
- 認知症予防教室、認知症カフェ、サロン等の運営補助
- 見守り支援・安否確認 等

※ 上記の実践活動のほか、松戸市あんしん一声運動（手助けが必要な認知症高齢者等に一声をかけ、できるだけ手助けを行う活動）にも参加。

# まつど認知症予防プロジェクトの基本コンセプト

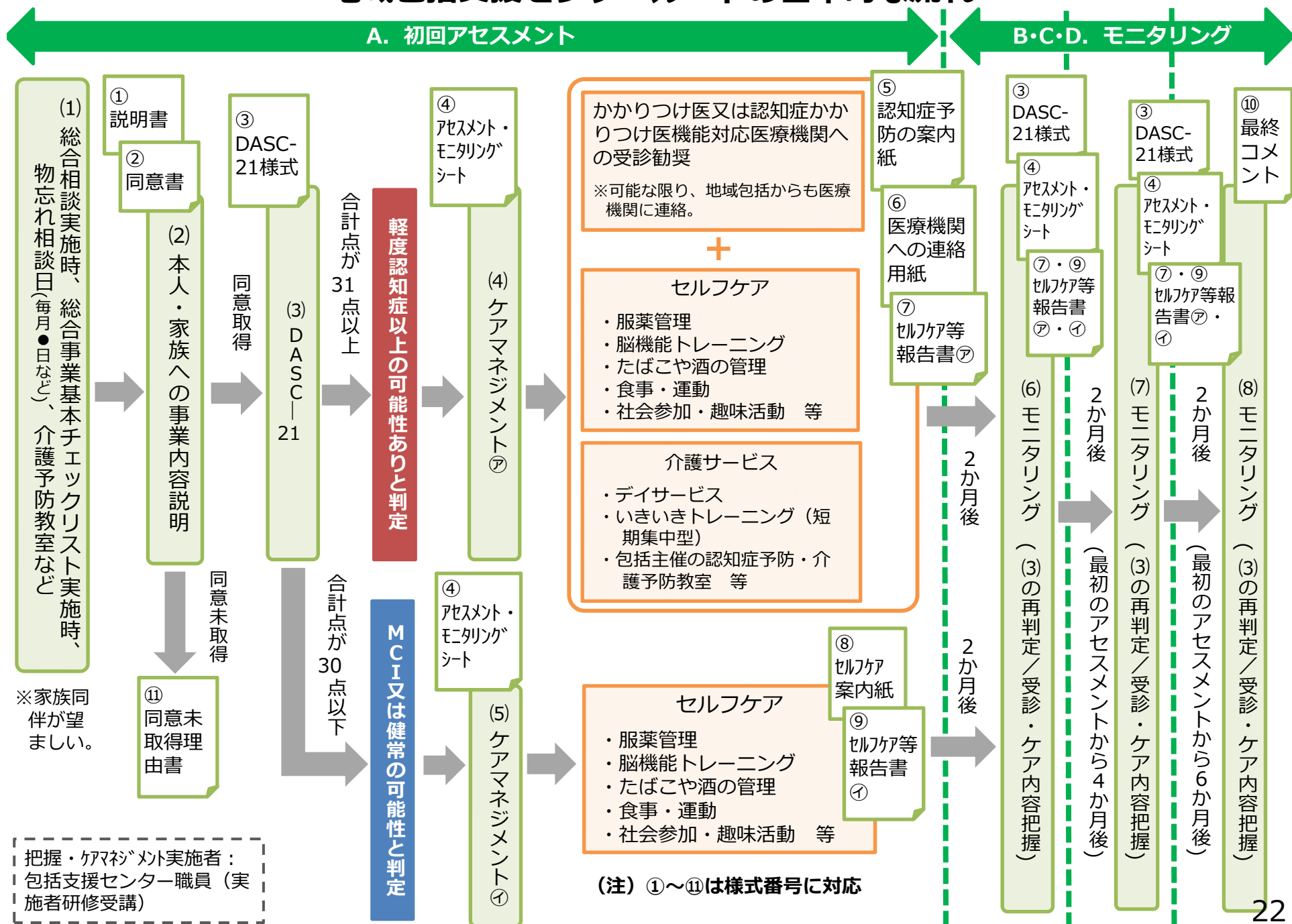
- 認知症の早期支援に関しては、軽度認知症の把握ができていない、医療機関に受診できていない、セルフケアができていないなどの課題がある。
- まつど認知症予防プロジェクトを通じて、これらの課題を解決し、認知症予防を推進する。



※システム構築に当たって、医師会・歯科医師会・薬剤師会・特別養護老人ホーム連絡協議会・介護支援専門員協議会・通所介護事業所連絡協議会等の関係団体と緊密に連携。



# 地域包括支援センタールートの基本流れ



## 認知症早期支援におけるかかりつけ医の役割

- まつど認知症予防プロジェクトでは、DASCによるアセスメントの結果、「軽度認知症以上の可能性あり」（31点以上）と判定された場合は、かかりつけ医の受診につなげることとしている。
- かかりつけ医は、①認知機能障害の鑑別診断（認知症以外の疾患の除外診断）、②併存疾病や生活習慣の的確な管理を行う。
- こうした認知症の早期支援に関するかかりつけ医の役割について、松戸市医師会の了解・協力を得た上で、市内の医療機関に対して、協力を依頼している。

### ① 認知機能障害の鑑別診断（認知症以外の疾患の除外診断）

【除外診断の対象となる疾患の例】



### ② 併存疾病や生活習慣の的確な管理

【管理の対象となる疾病や生活習慣の例】



# 認知症早期支援における重層的な医療連携体制の構築

まつど認知症予防プロジェクトでは、松戸市医師会の協力の下、①かかりつけ医、②認知症対応医療機関、③地域サポート医という重層的なシステムを構築し、認知症早期支援における医療連携の円滑化を図っている。

## 【医療連携のフロー（イメージ）】

包括センター等で軽度認知症以上の可能性ありと判定（DASCの合計点が31点以上）

まずは

### ①かかりつけ医

- ・ 認知機能障害の鑑別診断（認知症以外の疾患の除外診断）
- ・ 併存疾病や生活習慣の的確な管理 等

かかりつけ医がない場合

### ②認知症かかりつけ医機能対応医療機関（48機関）

- ・ 認知機能障害の鑑別診断（認知症以外の疾患の除外診断）
- ・ 併存疾病や生活習慣の的確な管理 等

機関間の連携が円滑に行えない場合など

### ③地域サポート医（18機関）

- ・ 助言・アドバイス、当事者間で解決が難しい場合の直接調整 等

特に専門性を要する場合  
・ レビー小体型  
・ 前頭側頭型  
・ BPSD対応困難時 等

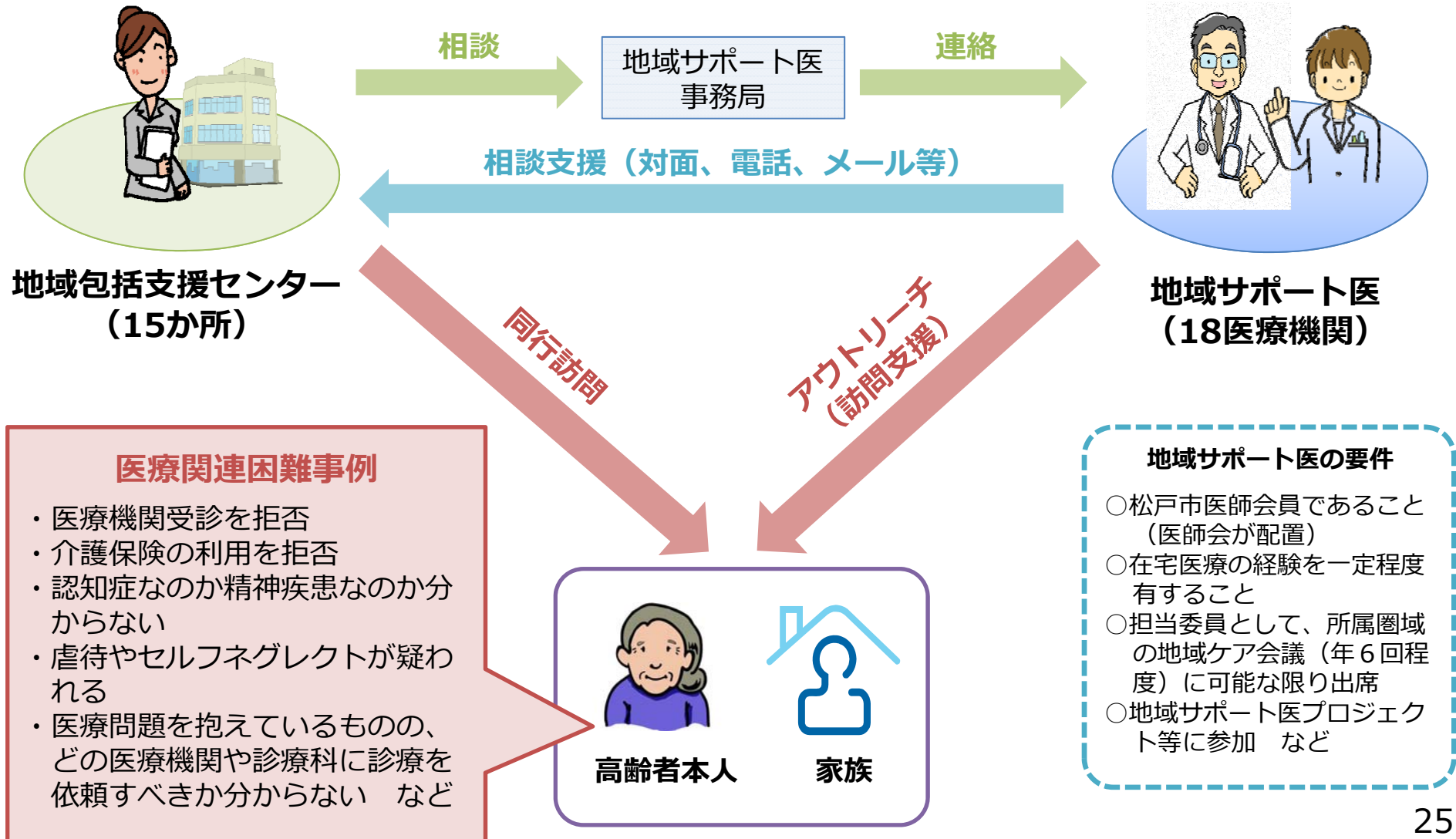
認知症専門医

診療所の看護師が医師への橋渡し役を担う。



# 地域サポート医の概要（松戸市）

- 地域に存在する医療関連の困難事例等に対して地域包括支援センターが効果的に対応できるよう、松戸市医師会により、包括センターごとに地域サポート医を配置。
- 地域サポート医は、包括センターへの相談支援を行うとともに、必要に応じて、アウトリーチ（訪問支援）を行う。





### 〇〇 地域 マンションの情報一覧 (抜粋)

	マンション名	管理会社	管理人の在勤体制				玄関オートロック		緊急対応窓口	見守りシステム	地域包括のチラシ等の掲示依頼	その他の情報
			平日	土曜	日祝	支援協力	有無	種類	有無	有無		
1	A	a	8時～17時	×	×		有			×	自主グループなし	
2	B	b	終日	午前中	×	管理室は外鍵の預かりなし	有		有	○ 包括チラシ・高齢者向け情報掲示済	自主グループ (お茶会)。月1回500円8人くらい参加。地区担当民生委員も参加。地域包括が緊急時の対応について、講話を行った。	
4	D	d	24時間在中 2交代で6人の管理人あり			管理室は中鍵の預かりなし	有	1階と4階に入口		○ 包括チラシ掲示済	自主グループなし	
5	E	e	9時～17時	午前中	×	管理室は中	有		有	○ 包括チラシ掲示済	管理組合所属 (市民自治課に登録あり) マンションから町会の子供会・自治会に参加している方がいる。	
7	G	c	※ちばSSKに登録								自治会に所属 (市民自治課に登録)	
8	H	f	8:45～17時	8:45～12時	×	管理室は中鍵の預かりなし 見守り協力あり	有		有	○ 包括チラシ掲示済みの掲示あり	町会に80人所属。 お助け隊：マンション住居者に対し、主に電球の交換や修理を業者が行う。30分無料。それ以上は自費あり。 管理室入り口に表記あり。	
9	I	c				管理室は中呼鈴100番	有			○ 包括チラシ掲示済み	町会に80人所属。 心配な高齢者がいても相談機関へ連絡はできないが、掲示板に案内意があると管理人から高齢者へ窓口を紹介できる。	
12	L	f	○	○	×	保安のため時間帯は公開しない	無		有	○ 包括チラシ掲示済み	エレベーターあり。 お助け隊：マンション住居者に対し、主に電球の交換や修理を業者が行う。30分無料。それ以上は自費あり。 管理会社が窓口。孤独死あり。	

※ちばSSKとは「しない、させない、孤立化！」の高齢者孤立化防止活動です。